「お坊さんからの手紙」

一通目（平成二十五年三月）

お塔婆供養のススメ

今回はお彼岸が近いのでお塔婆について。

私は、東京のお寺にいる頃からお彼岸やお盆やご法事などご先祖を供養する際には、お塔婆をお建てすることをお勧めしています。その理由は、お塔婆を建て供養することで、お塔婆に墨書きされた方だけでなく、自身もその周りも利を受けるからです。それは目に見えて分かる利ではないかもしれません。しかし、確かにそれはあります。

日蓮聖人は、『中興入道御消息』というお手紙の中でお塔婆について次のように仰っています。

「娘さんの十三回忌には、塔婆を建て、その面にお題目をしるしなさい。すると北風がふけば、その風にふれた南海の魚まで、大海の苦しみから救われ、東風が起きれば西山の鳥や獣たちまでもが畜生道をまぬがれてやがて天上界に生まれ変わることが出来ます。魚や動物でさえそのような功徳がおよぶのですから、すすんで塔婆を建て、手でふれ、自分の眼で確かめる人に功徳がおよばないということがあるはずがありません。亡くなった父母も塔婆供養の功徳によって、日月の光が闇を照らす様に、あらゆる苦悩から解放され安楽な世界で安らぐことが出来ます。さらに、塔婆を建て供養した人もそしてその家族も、現世においては心穏やかに過ごし、後生においては必ず父母のいる霊山浄土へと行くことができるでしょう。このことは疑いようも無いことです。」

日蓮聖人は、このようなお言葉で檀信徒の方にお塔婆供養を勧められておりました。

まだまだ書き足りないですが、今回はここで終わりです。名刺を同封しておりますので、気になること知りたいこと等ございましたら、気軽にご連絡ください。メールでもお手紙でも構いません。感想などもお聞かせいただけると嬉しいです。これから張り切って取り組んでいきますので、どうぞよろしくお願い致します。